

I D				外来・入院(号)
氏 名				性別
生年 月日	年	月	日 (歳)	

第 () クール

1クール28日（2週投与2週休薬）

身長	cm	主治医	
体重	kg	腎機能	正常/異常
体表面積	m ²	肝機能	正常/異常
SCr		CCr	ml/min

サイン

Pr 調剤 Pr mix N s 医事

ゲムシタビン投与量 (1000mg/m²) = () mg day1, day8

年 月 日 (day 1)							
27	中心静脈注射	98	無菌(悪性腫瘍剤)				
33	外来化学療法加算	39	埋込型カテーテルによる中心静脈				
[:]	ボトル① (ルートキープ) 主管 ①			ルートキープ			
	生食	250mL 1本					
[:]	ボトル② 側管 15分 ②						
	アロキシバッグ	0.75mg 1バッグ	15分				
	デキサート注射液	6.6mg 1V					
[:]	ボトル③ 側管 30分 ③			30分			
	5%糖液	100mL 1本					
	ゲムシタビン()mg (1000mg/m ²)						
	ゲムシタビン	200mg()V					
	ゲムシタビン	1000mg()V					
[:]	主管の残液で少量フラッシュ後、破棄						

年 月 日 (day 8)							
27	中心静脈注射	98	無菌(悪性腫瘍剤)				
33	外来化学療法加算	39	埋込型カテーテルによる中心静脈				
[:]	ボトル① (ルートキープ) 主管 ①			ルートキープ			
	生食	250mL 1本					
[:]	ボトル② 側管 15分 ②						
	アロキシバッグ	0.75mg 1バッグ	15分				
	デキサート注射液	6.6mg 1V					
[:]	ボトル③ 側管 30分 ③			30分			
	5%糖液	100mL 1本					
	ゲムシタビン()mg (1000mg/m ²)						
	ゲムシタビン	200mg()V					
	ゲムシタビン	1000mg()V					
[:]	主管の残液で少量フラッシュ後、破棄						

年 月 日 (day 15)	休 薬
----------------	-----

	検査データ	バイタル	副作用チェック	看護記録
月 日 (day1)	WBC	前	嘔気嘔吐	サイン
	好中球	中	血管炎	
	血小板	後	排便状態	
			発熱	
月 日 (day8)	WBC	前	嘔気嘔吐	サイン
	好中球	中	血管炎	
	血小板	後	排便状態	
			発熱	

【投与基準】

○投与中止

※以下の副作用の発現した場合は、投与中止

- 腫瘍の明らかな増大、新病変の出現等、病態の進行が認められた場合
- 間質性肺炎等の肺毒性の発症や急性憎悪、過敏症、重傷感染症、心筋梗塞、腎障害
- 呼吸困難などのアナフィラキシー様症状が発現した場合
- 微小血管症性溶血性貧血の兆候が認められた場合等

○投与延期

※投与当日、以下の基準に該当する場合は、骨髓機能が回復するまで投与延期する

- 白血球数 3000/ μ L 未満 又は 血小板数 10万/ μ L 未満

○投与量の修正(減量) (Ⅱ相試験における目安です)

※以下の副作用の発現した場合、投与延期を検討し、次のジェムザール投与量を800mg/m²へ減量を検討

- Grade3以上の血液学的毒性(白血球数・血小板数を除く)
- Grade3以上の悪心・嘔吐
- Grade2以上の非血液学的毒性(悪心・嘔吐を除く)

【調整および投与時の注意事項】

○週1回投与を2週連続し、3・4週目は休薬する(1コース)

○調整時、シリンジサイズ200mgバイアルは20mL以上、1gバイアルは50mL以上を用意する

○200mgバイアルは5mL以上、1gバイアルは25mL以上の生理食塩水に溶解する

○1回1000mg/m²を30分かけて点滴静注

※投与時間を60分以上で行うとゲムシタビンの毒性の頻度と程度が増強した海外データあり！！

【副作用】

○骨髓抑制(白血球減少・好中球減少・血小板減少・貧血)

※白血球及び好中球の最低値は投与開始平均2～3週間にあらわれる。→最低値発現日から約1週間で回復(血小板についても同様の傾向がみられる)

○悪心・嘔吐

○間質性肺炎等の肺毒性

※※その他、注意事項、副作用とその対策については「ジェムザール ポケットガイド」を参照※※